

所在地	氏名/所属医療機関名/役職	名医による治療の特徴やモットー、手術の実績・術式の内訳など
北海道	名越 智 札幌孝仁会記念病院/ 副院長、人工関節センター長、 股関節疾患センター長	人工股関節置換術では、確実な手術手技と正確な設置、筋腱温存する低侵襲手術を行っている。患者には、安易にインターネットの情報を信じず、医療関係者からも信頼される良医にかかってもらいたいと思っているという。名越先生の年間執刀例：230例(人工股関節置換術210例、骨切り術・人工股関節再置換術・ほか20例)
福島県	青田恵郎 星総合病院/股関節・ 人工股関節センター長	痛みの改善だけでなく、きれいに歩きやすくすることを目標として、それぞれの患者の体に合ったインプラント設置(ロボット使用下)と、徹底した関節と下肢バランスを調整する手術を行っている。青田先生の年間執刀例：500例(協力病院含む。人工股関節置換術490例、人工股関節再置換術10例)
千葉県	老沼和弘 船橋整形外科病院/院長	前方進入法による人工股関節手術を'04年より導入し、手術件数ランキングは'12年より全国トップをキープ。独自に開発した国産インプラントを'20年より導入し、良好な治療成績を世界に向けて発信中。老沼先生の年間執刀例：人工股関節関連約550例(人工股関節置換術95%、その他5%)
埼玉県	神野哲也 獨協医科大学埼玉医療センター/ 副院長、整形外科主任教授	股関節の状態や患者の希望に応じて、骨切り術など人工関節以外の手術や、関節注射を含めた非手術治療も提案している。変形性股関節症には遺伝素因がある場合もあるので「家族外来」も実施している。神野先生のグループの年間執刀例：330例(人工股関節全置換術・再置換術260例、股関節鏡15例、股関節骨切り術10例、外傷ほか45例)
東京都	松原正明 日産厚生会玉川病院/名誉股関節 センター長、日産厚生会医学研究 所長、東京科学大学臨床教授	当院は特に成人の股関節疾患の診療に力を入れ、人工股関節は前側方進入法を用い、術後の禁忌肢位(してはいけない姿勢)がないこと、難治例ではロボットを使用することでより安全で正確な治療に努めている。病院全体の年間執刀例：1767例(人工股関節全置換術1262例、大腿骨近位部骨折206例、ほか)
神奈川県	平川 和男 湘南鎌倉人工関節センター/院長	筋腱をできるだけ温存し、皮膚切開もできる限り小さく(8~10cm)、徹底した術中術後の合併症管理を行ったうえで手術翌日から歩行を開始し早期退院、早期社会(職場)復帰を目指す。入院期間は2~7日で自宅への退院を98%実現。年間執刀例：現在は若手教育のため、平川先生個人では100~150例程度だが、病院全体では700例を超える。病院開設当初から10年は平川先生個人で年間350~400例、21年間で人工股関節置換術は1万4000例を超える。
神奈川県	稲葉 裕 横浜市立大学/副学長、 医学部整形外科教授	人工関節手術は多くの病院で行われており、当院は骨切り術を多く行っている。すべての手術にロボット、もしくはコンピュータナビゲーションを使用しているのが特徴。稲葉先生の年間執刀例：約60例(人工股関節置換術・ロボット支援40例、寛骨臼回転骨切り術15例、大腿骨頭回転骨切り術5例)
神奈川県	高平尚伸 北里大学/大学院 医療系研究科 医学専攻主任 整形外科・リハビリ テーション科学・スポーツ医学教授	健康寿命の延伸を目的に、術後の早期リハビリテーションやスポーツ復帰までを目指し、一生のタイムスパンまでを考慮して、最小侵襲で、シンプルに、より安全性の高い術式を選び、自らの創意ある工夫も加えて丁寧に行う。高平先生の年間執刀数：約200例(人工股関節置換術：MIS-ALS、人工股関節再置換術：同種骨使用、股関節骨切り術(寛骨臼側：CPO、Chiari、RAO、大腿骨側：内反、外反、屈曲、回転)
愛知県	金治有彦 藤田医科大学ばんだね病院/ 医学部整形外科機能再建学 臨床教授	成人に対してはかなり進行した症例の股関節周囲筋、関節包靱帯を接離せず完全温存して行う低侵襲手術、人工股関節置換術を導入しており、疼痛の少ない手術主義を信条としている。金治先生の執刀例：'24年は人工股関節全置換術416例、人工股関節再置換術7例、股関節鏡視下手術7例など
石川県	加畑多文 金沢大学大学院/医薬保健研究域 医学系准教授、金沢大学附属病院/ 整形外科准教授	人工股関節置換術(THA)では20年にわたり手術用ナビゲーションを全例で使用し、特に「表面置換型THA」や「抗菌加工THA」、そして「カスタムメイドTHA」を積極的に採用している。両側同時手術は全体の40%を占めている。加畑先生の年間執刀例：約220例(関連病院での出張手術を含む。人工股関節全置換術200例、人工股関節再置換術15例、ほか)
石川県	兼氏 歩 金沢医科大学医学部/整形外科 金沢医科大学病院/整形外科 主任教授	一人一人に最適と思われる手術方法、インプラントを提案している。進行期であっても適応があれば寛骨臼骨切り術を行う。また、術後は十分なりハビリを行って退院してもらっている。兼氏先生の年間執刀例：180~200例(関連病院での出張手術を含む、人工股関節置換術THA150~170例、人工股関節再置換術8~10例、低侵襲寛骨臼骨切り術等20~25例)
兵庫県	菅野伸彦 川西市立総合医療センター/ 人工関節センター長、大阪大学/ 医学系研究科招聘教授	すべての手術においてCT画像による3次元最適計画を個別に立て、術中にナビゲーションやロボットによる正確な手術を行う。菅野先生の年間執刀例：250例(人工股関節全置換術、人工股関節再置換術、寛骨臼回転骨切り術、ほか)
愛媛県	高尾正樹 愛媛大学大学院/ 医学系研究科整形外科教授	コンピュータ支援手術(3D計画、ナビゲーション、ロボット)をすべての股関節手術に利用。安全で正確な手術をモットーとしている。医農連携研究として、栄養介入とデジタル活動量計による運動器機能回復のモニタリングを行っている。高尾先生の年間執刀例：110例(THA90例、再THA5例、転子下短縮骨切り術併用THA3例、寛骨臼回転骨切り術10例、大腿骨転子部骨切り術2例)
岡山県	三谷 茂 川崎医科大学/ 脊椎・関節整形外科教授	赤ちゃんから高齢者までシームレスに股関節疾患の治療に携わっている。発育性股関節形成不全を中心に、保存治療による疾患の進行抑制、病期に応じて関節温存手術や人工股関節置換術などに取り組んでいる。三谷先生の年間執刀例：執刀、指導を合わせて約250例(人工股関節置換術220例、関節温存手術10例、小児股関節手術20例)
山口県	坂井孝司 山口大学医学部附属病院/ 副院長、整形外科主任教授	人工関節・骨切り術ともCTナビゲーションを使用し正確で理想的な手術を行っている。希望者には術後、ジョギングを含めたスポーツも行えるような、「手術したことを忘れる」股関節手術を目標としている。坂井先生の年間執刀例：125例(人工股関節全置換術120例、人工股関節再置換術3例、骨盤骨切り術2例)
福岡県	山本卓明 福岡大学医学部/ 整形外科主任教授、 福岡大学西新病院/院長	患者一人一人、それぞれ症状や病状は異なるため最も適した治療法、手術方法、術後リハビリテーションを患者本人とその家族と一緒に相談し、考えたうえで治療を実施。山本先生の年間執刀例：約180例(人工股関節全置換術、各種股関節骨切り術)

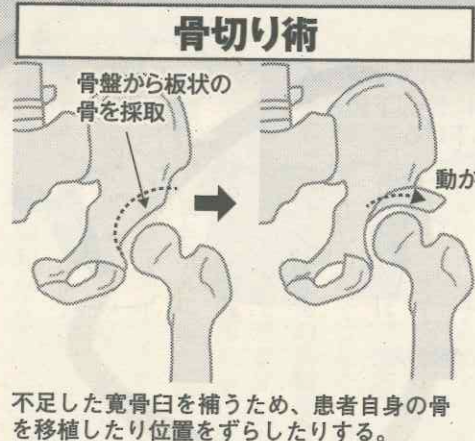
変形性股関節症 予防と治療で一生歩こう!

人工股関節置換術から骨切り術まで

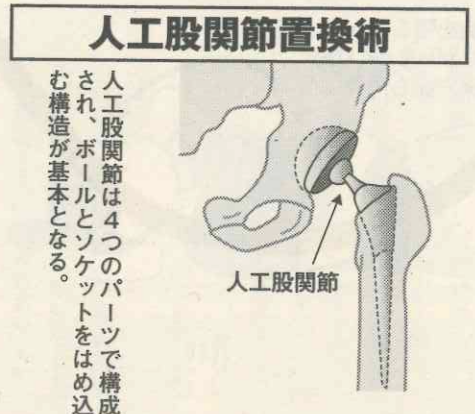
最新治療はここまできている

慢性痛に悩む患者にとって、ロボット支援手術や再生医療が新たな希望となっている。安全性の向上により術後のQOL(生活の質)改善が期待でき、多くの患者がアクティブな生活を取り戻している。

「保存療法が続けてきたものの、痛みが強くなってきたという患者さんには、手術をお勧めします」
古い情報で不安視されることもある手術療法だが、現在は技術の向上や医療機器の開発・研究も進み、術後にアクティブな生活を取り戻すことが可能になった。
主な手術法としてまず骨切り術、人工股関節置換術がある。
骨切り術は、骨盤や大腿骨を切つて関節の形を整える術式。
「病期によって複数の方法から選択します。ただし適用は初期まで



骨盤から板状の骨を採取
動かす
不足した寛骨臼を補うため、患者自身の骨を移植したり位置をずらしたりする。



人工股関節は4つのパーツで構成され、ボールとソケットをはめ込む構造が基本となる。
「入院期間は短縮化の流れにあり、米国では日帰り手術が主流ですが、当院では事情がない限り3週間程度入院し、リハビリに励んでから日常生活に戻っていただきます」
退院後、アクティブな生活を取り戻すため、リハビリはおそろかにはできないと金治先生は言う。
「進行した50~60代の患者さんが手術によって、『もう一生できない』と諦めていたダンスやヨガ、登山を術後再開できたという報告をいただくこともあります」
こうした流れから最近では「進行する前に手術を」と希望する患者さんも少なくないという。
さらに、血小板由来成長因子を

が対象で、重症化して軟骨がほぼ失われた人には適さない術式で、入院期間も1ヵ月以上になります」
主流となる人工股関節置換術は、変形した股関節を金属を中心とした関節部品に入れ替える方法。すべての病期で受けられ、近年はロボット支援手術も導入されている。
「人工股関節置換術はロボットやナビゲーションシステムの導入により安全性も高くなり、術後のQOLが一定レベルを目指せるようになってきています」
この術式は個々の患者さんの関

節と骨形態に合ったインプラントを選択し、筋肉や軟部組織を徹底的に温存します。個別治療の提供を目指す時代が到来しています」
手術費用の目安はいずれも(健康保険3割負担の人で)約60万、80万円だが、高額療養費制度が適用になるため、自己負担は10万円程度(＋別途差額ベッド代など)の負担となる。
「入院期間は短縮化の流れにあり、米国では日帰り手術が主流ですが、当院では事情がない限り3週間程度入院し、リハビリに励んでから日常生活に戻っていただきます」
退院後、アクティブな生活を取り戻すため、リハビリはおそろかにはできないと金治先生は言う。
「進行した50~60代の患者さんが手術によって、『もう一生できない』と諦めていたダンスやヨガ、登山を術後再開できたという報告をいただくこともあります」
こうした流れから最近では「進行する前に手術を」と希望する患者さんも少なくないという。
さらに、血小板由来成長因子を



手術支援ロボットを使用した人工股関節全置換術も導入している

濃縮、関節に注射し損傷した組織の修復を促す再生医療PRP療法も注目されている。

「低侵襲ということから治療を希望する人は増えていきます。費用は自由診療で当院では1回20万円。医療機関によって費用は異なるので治療内容と回数を確認し、納得して受けることが大切です」
痛みを抱えているなら手術や再生医療を視野に入れてもいい時代なのだ。次ページでは「手術の名医リスト」を掲載。諦めてしまったアクティブな趣味を再開するため検討してみよう。